

産業大動脈網の構築で スマートシティを促進

インドはスマートシティの開
発に関して国際的に注目を集め
ています。ナレンドラ・モディ首
相の「スマート・インディア」構
想では、インド全国に100カ
所のスマートシティを建設する
計画です。

「過去には町は川岸に建設さ
れていた。現在は主要道路沿い
に建設されている。しかし、将来
は光ファイバーネットワークと
次世代インフラの可用性に基づ
いて都市が建設されるようにな
るだろう」(モディ首相)

インド都市開発省は、6月末
から年末までに全国のスマート
シティの100カ所のリストを
絞り込む予定です。2022年
までにインドに100カ所のス
マートシティを建設するという

メイク・イン・インディアで 製造業の国際的ハブに

これらはインド政府と海外の
民間企業との間で新しい投資機
会を見出すことを望む外国政府
との協働によって開発されてい
ます。日本は、国際協力機構(J
ICA)からの融資を通じてD
MICプロジェクトの第1段階
に45億ドルの投資を行い、イン
ドのスマートシティ建設を支援
しています。さらにインドは、1
00カ所のスマートシティ建設
に向けて、シンガポールとの間
で同国が持つスマートシティお
よび都市化計画の専門知識を利
用するための契約を結びました。
「メイク・イン・インディア」は、
投資を促進し、インドを国際的
な製造業のハブにするための計
画です。投資家や国際的な産業
大手からの当初の反応は心強い

モディが変える インド経済

第2回

メイク・イン・インディア キャンペーンへの期待

インドを「世界の製造・輸出拠点」とする「メイク・イン・イン
ディア」構想。政府が規制緩和やインフラ整備に取り組んでい
ることから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に動き始
めている。「スマートシティ開発」によって、製造業の発展に不
可欠なインフラ整備が進展している。

現在進行中の取り組みは、非常
に速いペースで実行中です。各
方面の出資者は、潜在的な可能
性を認識して、共同責任で取り
組んでいます。100万〜40
0万人の人口を有する36の州都
のほとんど、観光及び宗教的な

重要性を持つ都市はスマートシ
ティに指定される条件を満たし
ています。スマートシティにな
れば、ワールドクラスの輸送機
関、24時間体制の水と電気の供
給、100Mbpsのインター
ネット接続や遠隔治療施設など

見通しを示すもので、長い目で
見てインドにとって大変革をも
たらす可能性があるというもの
でした。インドは、過去において
も「緑の革命」や「白い革命」など
の大規模な変革計画を通じ、経
済成長を実現してきました。「メ

イク・イン・インディア」も、堅調
な国内需要、豊富な資源、未熟
練・半熟練労働者、強固な起業文
化および現代化された新しい都
市部のスマートシティにおける
健全な法制度などの後押しを受
け、同じように製造業を新しい



を有することになります。

モディ首相のスマートシティ
計画は、インドの大都市間に産
業大動脈を築くという大きな計
画の一環です。海外14カ国が既
にインド政府にスマートシティ
構想に対して支援や協力の申し
出を行いました。対象となる事
業には、デリー・ムンバイ間産業
大動脈(DMIC)、チェンナイ・
バンガロール間産業大動脈(C
BIC)、そしてバンガロール・
ムンバイ間産業大動脈(BMI
C)が挙げられます。こうした大
動脈に沿って、多くの産業・商業
センターがスマートシティとし
て再創造されることが期待され
ています。6つの州にまたがる
デリー・ムンバイ間産業大動脈
では、第1段階において大動脈
への接続点として7カ所の新し
いスマートシティを建設するこ
とを模索しています。

職創出の基盤に変える可能性が
あります。

さまざまな企画によって、イ
ンドのスマート都市化は急ピツ
チで動いているように感じます。
メイク・イン・インディアは、今
後のインドの成長を支える起爆
剤になると期待されています。



帝羽ニルマラ純子

(ていは・にるまら・じゆんこ)インド共
和国・バンガロール生まれ。法政大
学大学院修了(イノベーションマネジ
メント専攻)。日印コンサルタント会
社起業を経て、現在インドビジネスア
ドバイザー。来日以来16年間で、日
本企業の海外展開、外国企業の日
本市場参入支援を中心に活躍。「日
本人が理解できない混沌(カオス)
の国インド 政権交代で9億人の
巨大中間層が生まれる」(日刊工業
新聞社)など著書多数。